

# Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)のこれまでの取組と今後の方向性

令和4年 7月22日

Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)

主幹機関 東京大学 産学協創推進本部 スタートアップ推進部ディレクター 宮脇守

主幹機関 早稲田大学 リサーチイノベーションセンター アントレプレナーシップセクション副所長 島岡未来子

主幹機関 東京工業大学 研究・産学連携本部 副本部長 辻本将晴

# 目次

## ➤ **Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)のこれまでの取り組みの概要**

東京工業大学 研究・産学連携本部 副本部長 辻本将晴

## ➤ **東京大学でのアントレ教育**

### **Global Tech EDGENEXTでの成果とGTIEでの活動進捗**

東京大学 産学協創推進本部 スタートアップ推進部ディレクター 宮脇守

## ➤ **EDGE-NEXT人材育成のための共創エコシステムの形成**

### **Skyward EDGEコンソーシアム取組成果報告と取組成果のGTIEへの展開**

早稲田大学 リサーチイノベーションセンター アントレプレナーシップセクション副所長 島岡未来子

## ➤ **GTIEとして進めてきた中での課題と今後の方向性（計画）**

東京工業大学 研究・産学連携本部 副本部長 辻本将晴



Tokyo Tech

# Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) のこれまでの取り組みの概要

東京工業大学

環境・社会理工学院

イノベーション科学系／技術経営専門職学位課程

教授（系・課程主任）

研究・産学連携本部 副本部長

東京工業大学 イノベーションデザイン機構 機構長

辻本 将晴

## これまでの経緯

- R2年7月：東京エリアがスタートアップ・エコシステム拠点都市に選定
- R2年度末～R3年度：R2補正予算「大学発新産業創出プログラム（START）社会還元加速プログラム（SCORE）大学推進型（拠点都市環境整備型）」に東工大を主幹とするイノベーションデザインプラットフォーム（IdP）、早稲田大学を主幹とするT-UNITE、一般社団法人横浜みなとみらい21を主幹とする横浜プラットフォームが採択され、取組を実施
- R3年度11月～現在：START大学・エコシステム推進型「スタートアップ・エコシステム形成支援」にGTIE（Greater Tokyo Innovation Ecosystem）が採択され、取組を開始
- R4年5月：R3年度補正予算事業による追加措置により、GAPファンドの取組を開始

# Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) 実施体制



## 共同主幹

国立大学法人東京大学  
学校法人早稲田大学  
国立大学法人東京工業大学

## 幹事自治体

東京都  
横浜市  
川崎市  
つくば市  
茨城県  
渋谷区

## 共同機関

国立大学法人筑波大学  
国立大学法人千葉大学  
一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J)  
国立大学法人東京農工大学  
国立大学法人お茶の水女子大学  
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学  
CIC Toranomom 合同会社  
渋谷スクランブルスクエア株式会社  
国立大学法人横浜国立大学  
公立大学法人横浜市立大学  
国立大学法人東京医科歯科大学  
学校法人慶應義塾 慶應義塾大学  
東京都公立大学法人東京都立大学

# Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) 実施体制



協力機関

神奈川県	ニューヨーク州立大学	一般社団法人つくばグローバル・イノベーション推進機構	インテグラル・インベストメント株式会社
新宿区	テルアビブ大学	株式会社横浜銀行	コランダム・イノベーション株式会社
富山県	一般社団法人横浜みなとみらい21	独立行政法人日本貿易振興機構	株式会社Coral Capital
中央大学	株式会社マキシマイズ	三井不動産株式会社	株式会社アカデミック・ギャングスター
筑波技術大学	国立研究開発法人産業技術総合研究所	三菱地所株式会社	一般社団法人ダイアログ・カフェ・クラブ
神奈川大学	Landing Pad Tokyo	野村証券株式会社	FieldUP
関東学院大学	ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ株式会社	株式会社三井住友銀行	一般社団法人日本バイオデザイン学会
東京都立産業技術大学院大学	株式会社スケールアウト	株式会社先端技術共創機構	一般社団法人日本医療ベンチャー協会
東京理科大学	三菱電機株式会社	一般財団法人 カルチャービジョンジャパン	Scrum Ventures
学校法人多摩美術大学	Beyond Next Ventures株式会社	一般財団法人 大川ドリーム基金	野村アグリプランニング&アドバイザー株式会社
国立大学法人滋賀医科大学	インキュベイトファンド株式会社	ウエルインベストメント株式会社	森ビル株式会社
学校法人沖縄科学技術大学院大学	株式会社慶應イノベーションイニシアティブ	500 Startups	株式会社ABCash Technologies
独立行政法人国立高等専門学校機構	東京大学協創プラットフォーム開発株式会社	シリコンバレージャパンプラットフォーム	東急不動産株式会社
国立研究開発法人理化学研究所	株式会社みらい創造機構	Sozo Ventures	国立研究開発法人物質・材料研究機構
バブソン大学	株式会社理研鼎業	Plug and Play Japan 株式会社	
ルンド大学	SOMPOホールディングス株式会社	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	

## ビジョン「世界を変える大学発スタートアップを育てる」

### ＜本事業での実施内容＞

- ① 起業活動支援プログラムの運営⇒GAPファンド、起業支援体制構築
- ② アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等⇒アントレプレナーシップ教育の実施
- ③ 起業環境の整備⇒起業活動の場の整備、関連規程の整備
- ④ 拠点都市のエコシステムの形成・発展⇒ネットワーク・コミュニティ形成等



トレーニングプログラム①②  
GTIE School  
海外アクセラレータのプログラム参加

GAPファンドの提供 ①  
民間資金活用  
伴走支援、Demo Day

シード出資獲得支援 ①

大企業等との連携支援 ①④  
テクノロジー・ショーケースと  
しての機会創出  
企業・自治体との連携によるカ  
スタマーデベロップメント

マッチング・チーム形成支援 ①  
GTIE内複数機関から構成されるチーム  
留学生中心チーム



Welcome to  
ISRAEL

THE BABSON COLLABORATIVE

JICA/JETRO/Stanford/UCSD/UCB

グローバル連携支援 ④  
海外投資家/アクセラレータ

アントレプレナーシップ教育 ②  
実践的教育/学部向け/中高生向け

GTIEコミュニティの形成 ①④

GTIEの活動拠点・場の共有 ③



# GTIEが目指す各項目の機能

	令和3年度の状況		令和7年度末までに目指す機能	令和7年度末の目標値*
① 起業活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>各参画機関で個別にあるいは少数の大学が集まって支援体制を構築</li> <li>プラットフォームとしてGAPファンドプログラムの運用（審査・選考・伴走支援）</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>GTIEサーチファンドによるマッチング、GAPファンド、トレーニング、連携支援機能の提供</li> <li>GTIE School の設置</li> <li>自治体による独自の教育プログラムの提供、集中支援の実施</li> <li>民間からの資金によるGAPファンド運営の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学発ベンチャー創出数1,500社（累積） （東京コンソーシアムのKPI達成（1,066社））</li> </ul>
② アントレプレナーシップ人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各参画機関で個別にあるいは少数の大学が集まってアントレ教育を実施。</li> <li>FDプログラムの開発・運営</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>主幹機関や幹事自治体を中心になって構築、実施する大規模プログラムに共同機関等からも参加</li> <li>自治体と連携し、小中高等でのアントレ講座の創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京コンソ会員の大学で希望する者が何らかのアントレプレナーシップ教育が受講できるようにする</li> <li>年間受講者数1万人以上</li> </ul>
③ 起業環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>起業に係る相談窓口は参画機関個別に存在。</li> <li>GAPファンド採択者、支援者が利用できる拠点を整備</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>東工大田町キャンパスCICにGTIE拠点を整備、起業に係るワンストップ窓口、オフィスの設置</li> <li>東工大田町キャンパスに有料オフィスを設置、併せて家賃をエクイティで支払えるなどの制度整備との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東工大田町キャンパスに設置したGTIE拠点利用登録者100名以上</li> </ul>
④ エコシステム形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォーム主催のシンポジウムを複数回開催</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>GTIEコミュニティの運営</li> <li>グローバル連携による海外VC / アクセラレータの関与</li> <li>東京コンソーシアムにアントレ教育WGを設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GTIEコミュニティ参加者数500名以上</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>【起業後の成長支援】</li> <li>GTIE内各機関が個別に支援を展開</li> </ul>	⇒	<ul style="list-style-type: none"> <li>【起業後の成長支援】</li> <li>GTIEとして起業後もコミュニティや拠点利用、シード出資支援、連携支援を継続する</li> <li>START / SBIRなど他の支援制度に接続</li> </ul>	

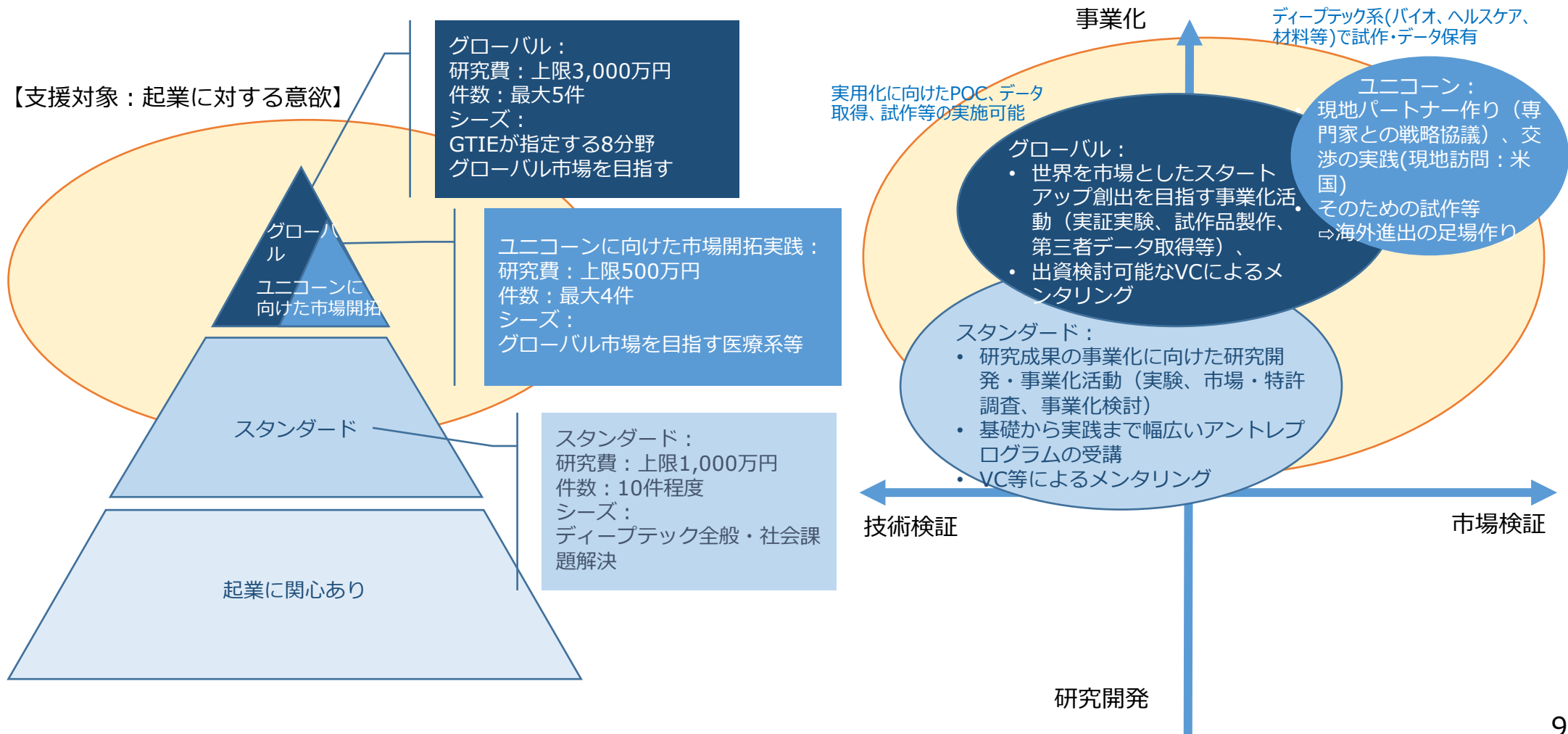
\* 申請時予算額に基づいて目標値を設定している



# ① 起業活動支援プログラムの運営

## GTIE GAPファンド3コース

GTIEでは、大学の持つディープテックのより一層の社会実装・事業化推進・グローバル展開という観点から、グローバル・ユニコーンというコースを設け、GAPファンドを実施している。令和4年度は19件程度採択予定。

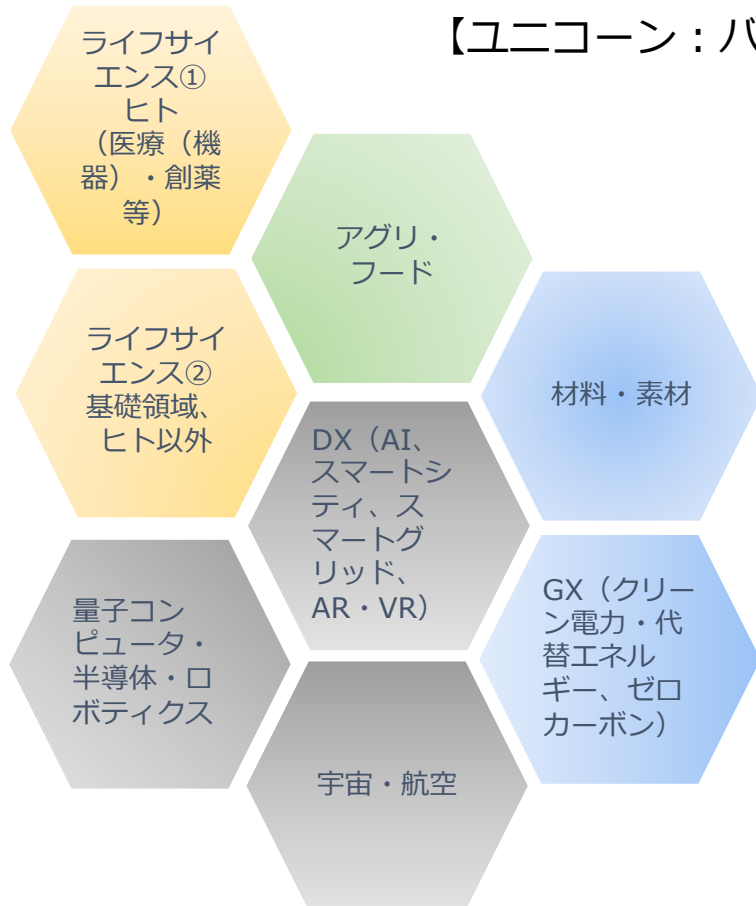


# ① 起業活動支援プログラムの運営

## GTIE GAPファンド3コース

グローバルコースではディープテックについて8分野を指定し、これらの分野からの応募を受け付けている。

【グローバル：指定8分野】



【ユニコーン：バイオ・医療、ヘルスケア、アグリ、材料等のディープテック分野】

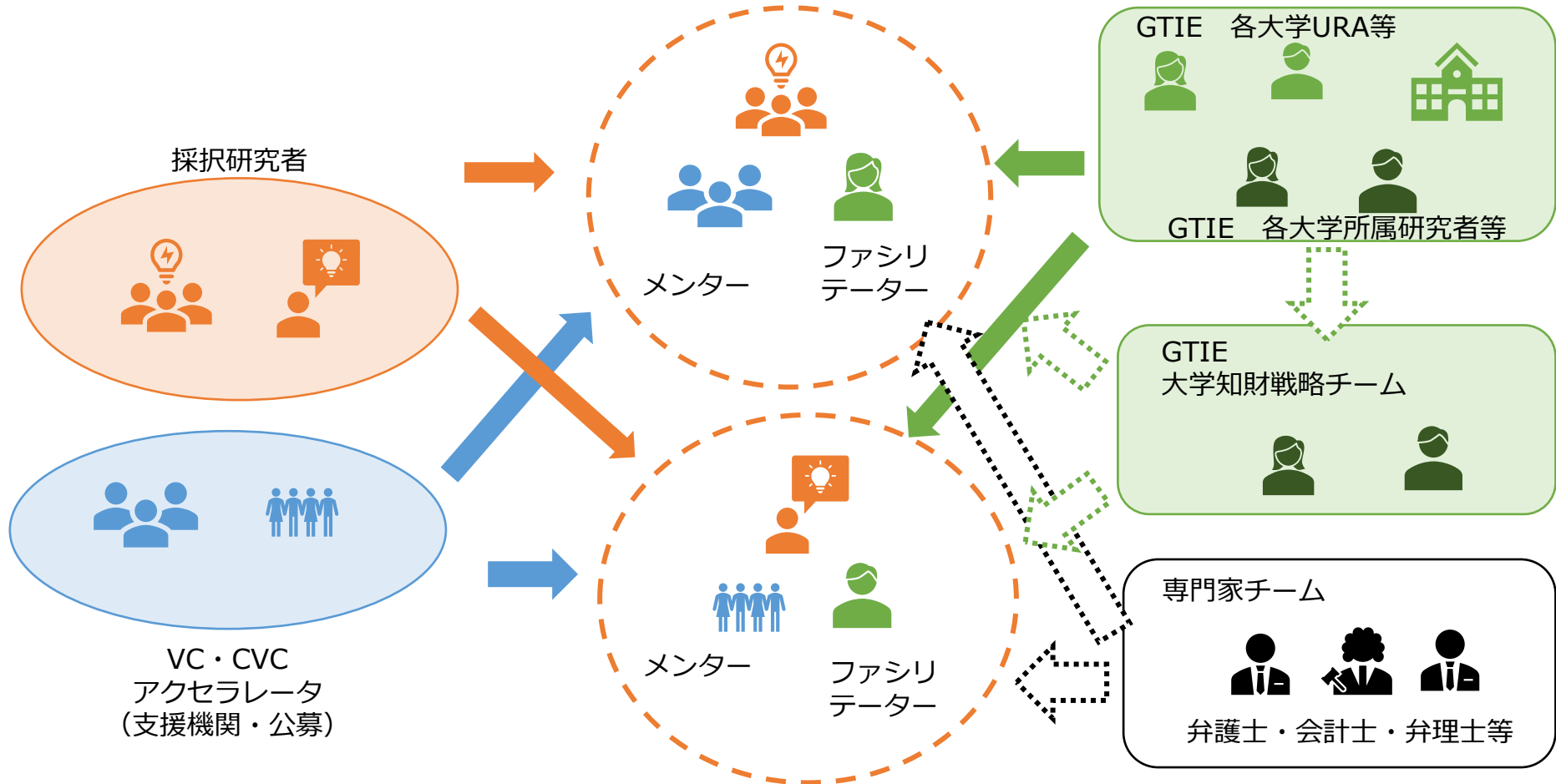
【スタンダード：ディープテック全般または社会課題解決シーズ】

大学等の技術シーズをベースにした  
SDGsの達成や地域の社会課題解決にも  
資するもの

# ① 起業活動支援プログラムの運営

## GTIE GAPファンドチームアップ：研究チームとサポート体制

1チームに対して複数名によるアクセラレータやVCのハンズオン支援、知財専門チーム・専門家チームのスポットコンサルティング、大学URA等によるファシリテーションによってGAPファンド案件を事業化までサポートしている。



## ① 起業活動支援プログラムの運営

# GTIE GAPファンド これまでの経緯と現状

40数件の応募があり、非常にレベルが高いチームが集まっている。GTIEに多くの大学が参加していることの効果が見られている。

- JSTからの正式採択(5/25(水))
- その後、早急に募集開始(5/27(金))
- **ほぼ1カ月間の短い募集期間**ながら、PFに参画する大学のご協力があり、**40数件の応募**
- ライフサイエンス、デジタルトランスフォーメーションをはじめ**多様な研究分野から応募**
- 応募課題の研究分野の審査では**大学の「知」を活用(応募のあった技術分野を専門とする大学研究者が技術部分を審査)**
- 面接等の審査を進め、9月には採択結果を公表予定
- 研究者の支援をいただく**メンタリング機関も公募(1チームに1社のVCやアクセラレータが付き、組織的に複数名で支援)**
- GTIEは大学内だけでなく大学外の経験等も活用してスタートアップを目指す研究者の支援を実施

採択された研究者の成長が期待できる

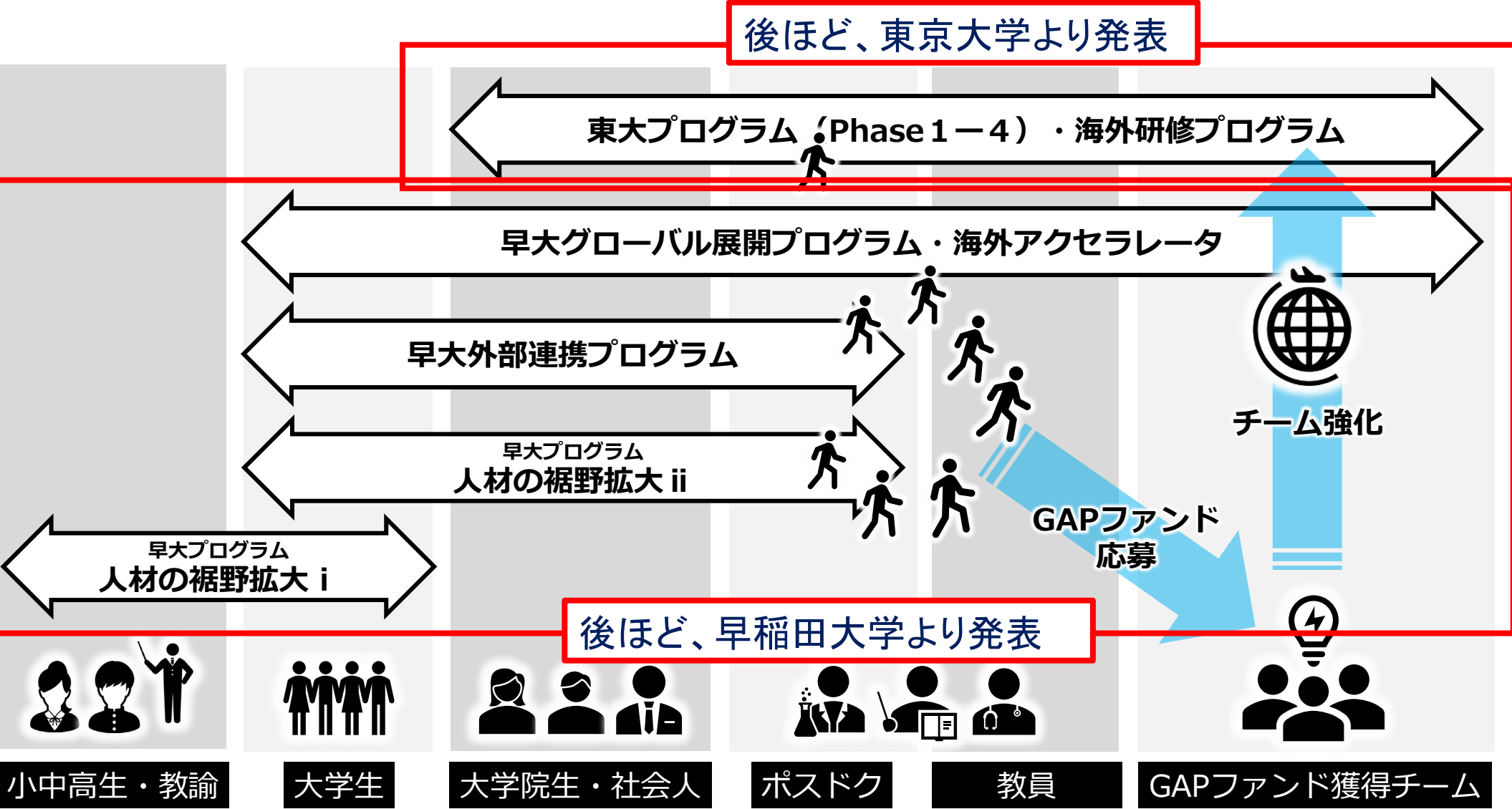
GTIE内外のスタートアップ支援に関するインサイト共有・蓄積・新たな工夫が進展中

来年は今年の成果を生かした取り組みに向けて既に準備を開始

② アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

GTIEにおけるアントレプレナーシップ人材育成プログラムの全体像

GTIE参画機関の研究者や学生が参加できるような教育プログラムを複数実施

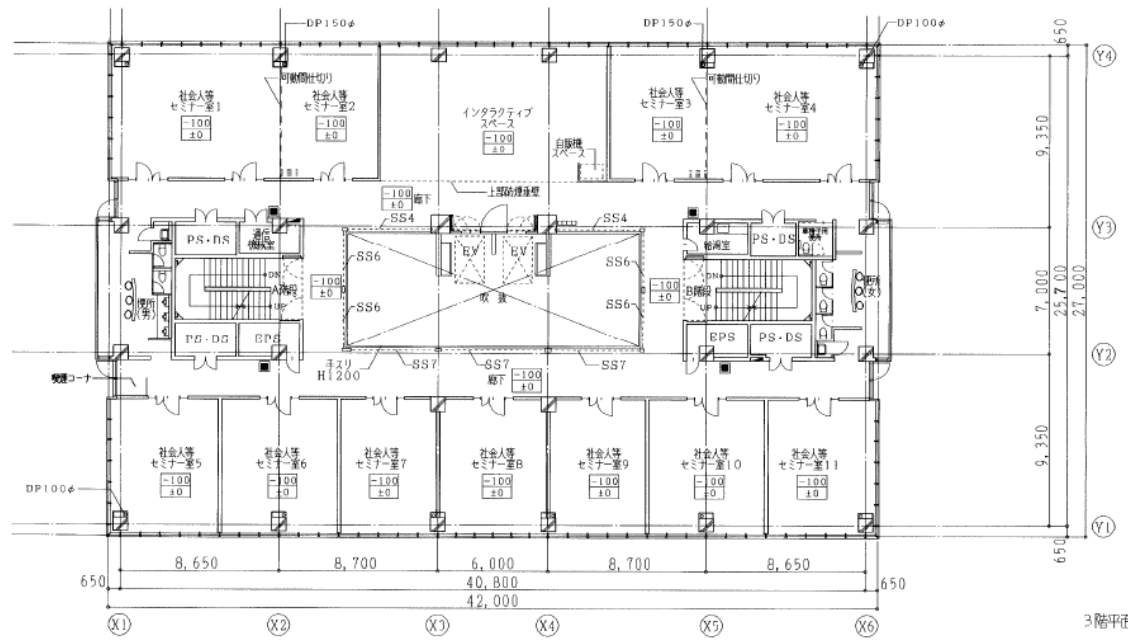


### ③起業環境の整備

# GTIE 拠点の整備・場の共有 (東工大田町キャンパスCIC)

東工大田町キャンパスCIC階・4階にGAPファンド採択チームも利用できるオフィスを複数箇所整備する予定。採択チームは2階に整備する相談窓口を利用可能とする。

✓ 東工大では3階・4階のオフィス18箇所をスタートアップ向けに貸し出していく予定であり、GTIEから創出されたスタートアップに優遇措置をとるような制度整備を検討する



# ④ エコシステムの形成・発展 GTIE コミュニティの形成と発展

オフラインとオンラインの特性を生かしながら、リアルコミュニティ、パブリックコミュニティ、クローズドコミュニティの3つの機能で価値を提供

提供価値	詳細	各機能による解決策		
		リアル コミュニティ 	パブリック コミュニティ 	クローズド コミュニティ 
アカデミック起業がワンストップで可能	研究と起業をつなげるには、独自のノウハウやナレッジが必要。オンライン・オフラインでそれぞれサポートを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家、メンターブースの設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアソンイベント</li> <li>・起業支援セミナー実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩起業家とのヒアリング</li> <li>・コミュニティマネージャを中心としたマッチング</li> </ul>
志が同じ仲間に出会える	アカデミア出身の起業家を増やしていくために、アントレプレナーのマインドを育てる必要があります。そのために、教育に加えて、同じ土俵にいる仲間の存在が重要な要素になります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスペースの設置</li> <li>・懇談会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツログを通じた出会い、発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインツールを用いたマッチング</li> </ul>
情報発信・PR、ブランディングにつながる	イベントやプレスリリースなど情報発信を積極的に行うことで、GTIEのコミュニティ・ブランド力もまわしていきます。そうすることで、所属するスタートアップにとってもPR力を提供することができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオブースの設置</li> <li>・イベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピッチイベントやプレスリリースによるPR機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クローズドなコミュニティでの告知機会</li> </ul>
ここでしか出会えない情報に出会える	専門性や大学間を超えた、起業のノウハウやナレッジが蓄積された場は他にはなく、エコシステムやプラットフォームづくりにとっては重要な要素になります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリー席やオープンなブースでのカジュアルな出会い</li> <li>・懇談会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WS等の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインツールでの情報交換</li> </ul>

# **東京大学でのアントレ教育**

## **Global Tech EDGENEXTでの成果とGTIEでの活動進捗**

7月22日（金）2022年

東京大学

宮脇 守



# EDGENEXTプログラムの成果 1 : 人材育成

## ◆成果 1 : 受講生自ら当事者

- 参加者全員（2060名：約半分強が学部生、約4分の1が院生及び教員、残りが国立研究所や企業からの社会人）4機関全体でグループワークを通じて平成29年度～令和3年度までの5年間計**315件のビジネスプラン**作成

## ◆成果 2 : アントレ教員人材育成

- : **5年間で110名の教員**が全国から参加、審査、メンタリング手法の向上を図った。

- ・参加教員の所属大学機関：北大、東北大、山形大、長岡技大、筑波大、筑波技術大、東大、お茶大、早大、理大、多摩美大、静大、名大、名工大、中京大、岐阜大、奈良先端大、阪大、立命館大、大阪府大、滋賀医大、岡山大、愛媛大、九大、宮崎大など

## ◆成果 3 : 多様な起業・新規事業の創出

### □ソーシャルベンチャーチーム :

- (株) Gab (ポイ捨てをゼロにする事業)

### □研究成果を活用したチーム :

- AgroDesign Studios (新農薬で起業、JST/NEDO大学発ベンチャー表彰に於いてアーリーエッジ賞) 資金調達総額9億円

### □研究所と大学との混成チーム :

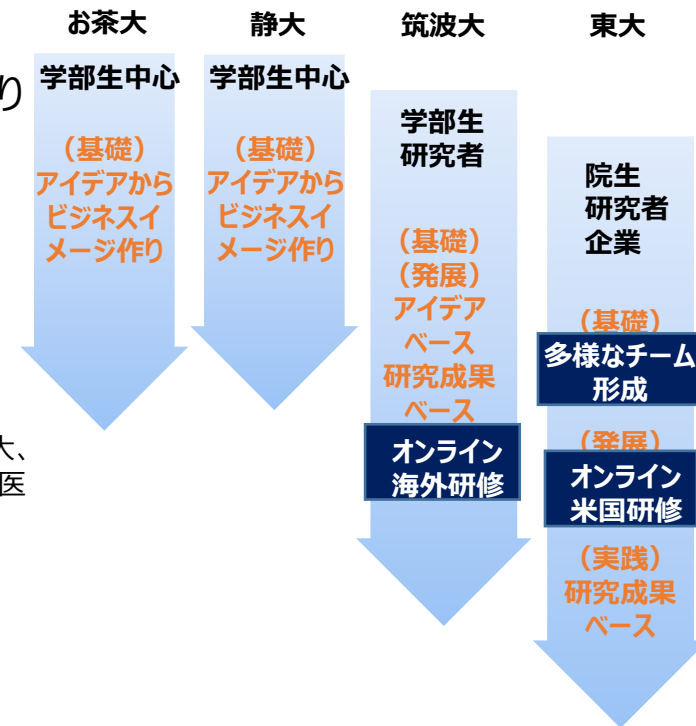
- つくばデザイン株式会社 (産総研と筑波大で、アートとデザインで地方創成)

### □グローバルで活動するチーム :

- Aster (東大と企業で連合で、ネパールで耐震補強サービス)
- TranSoniCa (東大留学生がガーナでバスのカード決済サービス)

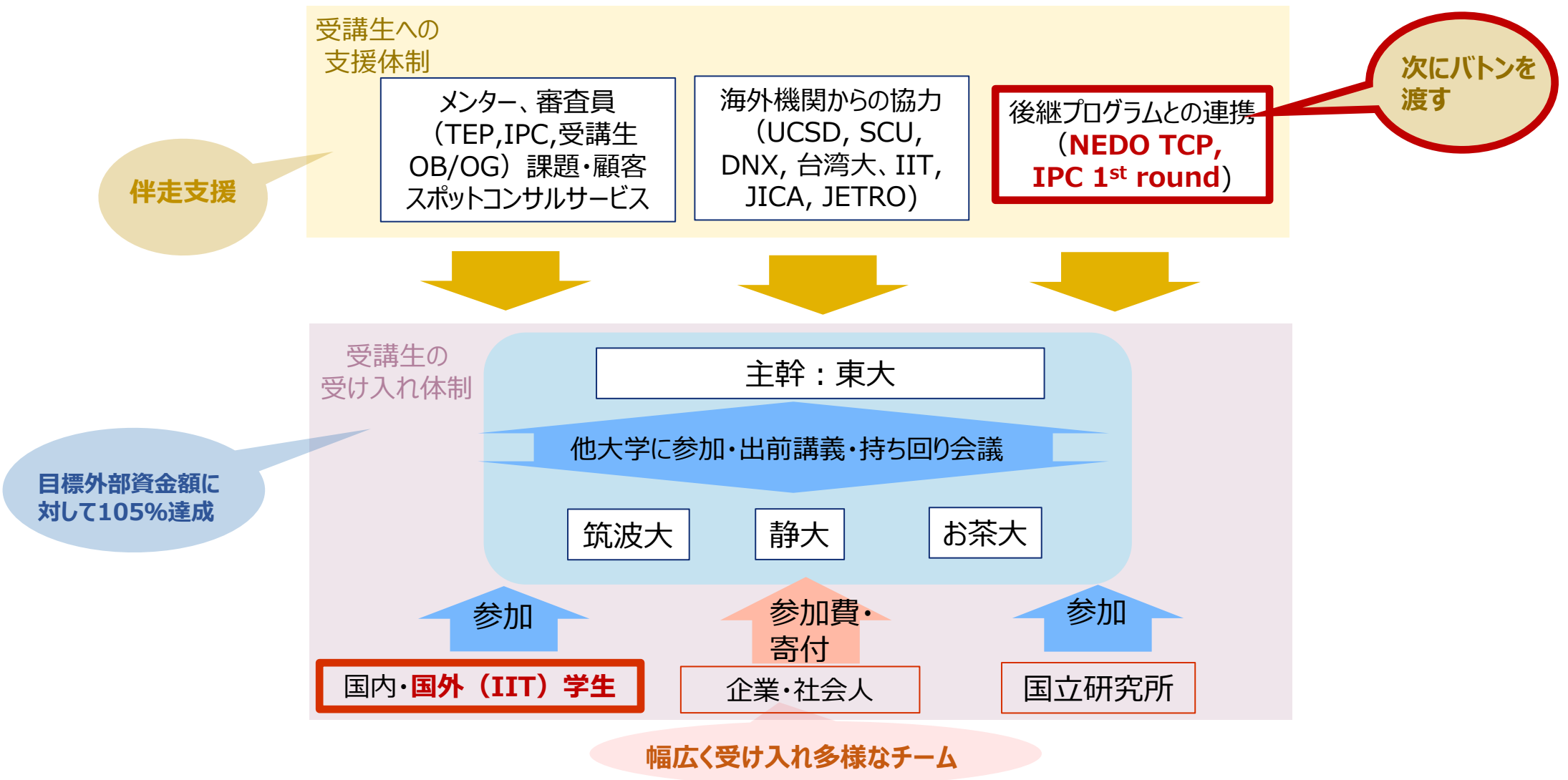
### □異業種間での企業チーム :

- コーサーとコニカミノルタ (髪の毛のAIで分析し、カスタマイズした商品提供サービス)



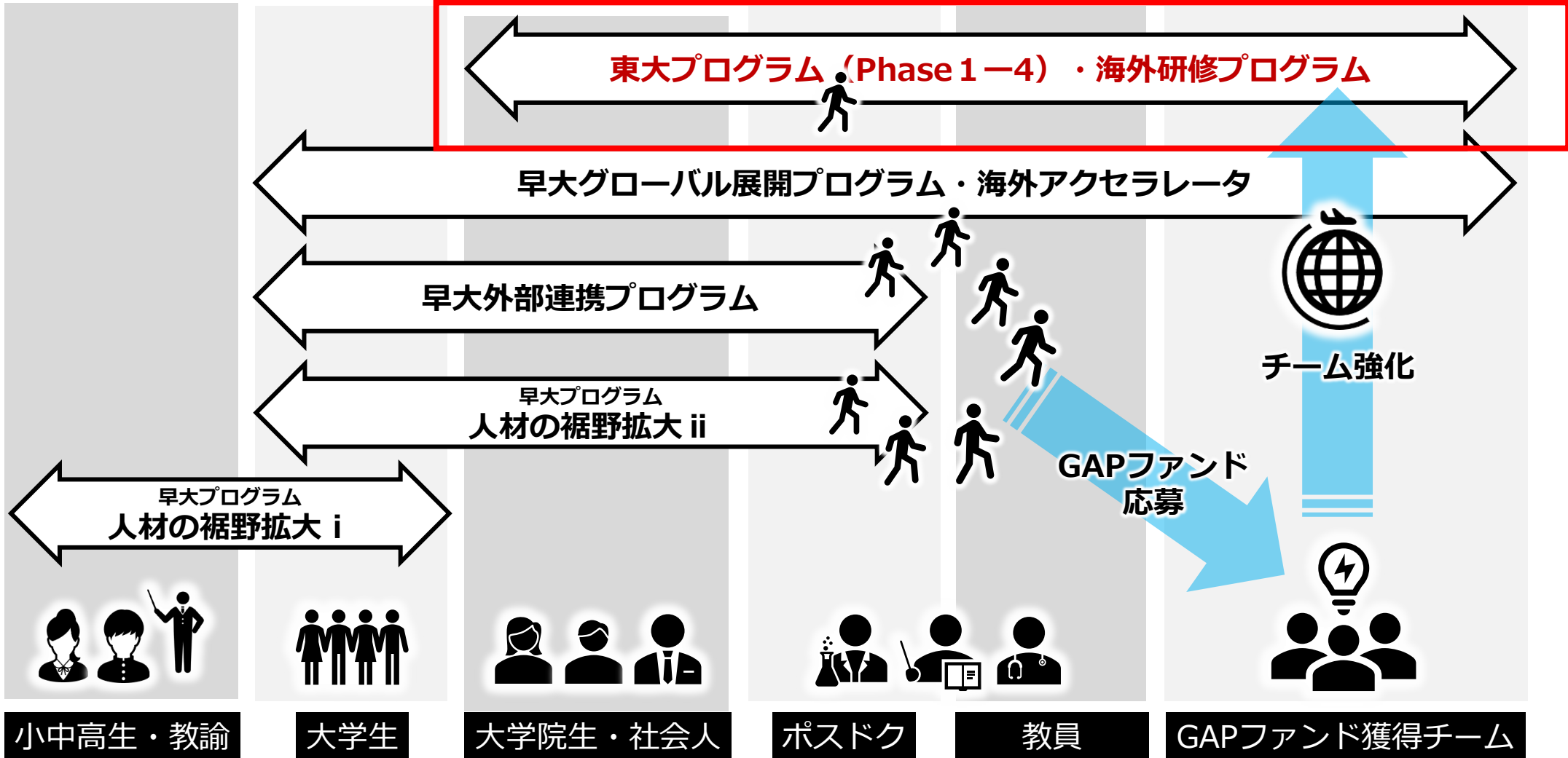
# EDGENEXTプログラムの成果 2 : エコシステム構築

EDGE-NEXTでは、海外からの受講生を含めた多様な受講生の受け入れを行うと共に、本活動の後継アクセラレーションプログラムとの接続により、教育活動をスタートアップ創設に繋げるエコシステムが構築できた。



# GTIEにおける東大のアントレプレナーシップ人材育成プログラムでの役割分担

役割：国内の大学にある優れた研究成果を活用して世界で活躍するスタートアップを生み出したい



# GTIEにおける東大が提供するアントレプレナーシップ人材育成プログラムの内容

東大GTIE

## 全体スケジュール in 2022

### 概要

大学や企業にある有効な人材や技術を活用して  
新産業を生み出すことができるチームの輩出を目指す

### 対象者

4月

参加希望の研究者・  
今後の研究者

8月5日

ビジネスプランと要望書  
(メンバー、提携)提出で  
きる研究者およびチーム

8月末

8月5日の報告会で 3rd  
フェーズ参加者決定

11月

4th フェーズ参加希望を  
ピッチ&検証活動計画書で選考

1st フェーズ

(5月-7月)

2nd フェーズ

(8月)

3rd フェーズ

(9月-11月)

4th フェーズ

(11月- 2月)

### Program

#### 基礎

- ・オンライン講義
- ・テーマ毎アイデアのまとめ
- ・全員で議論
- ・個別相談受付

#### ピッチ&交流

- ・関係者へ発表
- ・チームの補強
- ・チーム選抜

#### 仮説でのビジネスプラン作り

- ・オンライン講義
- ・テーマ毎アイデアのまとめ
- ・全員で議論
- ・個別相談受付
- ・投資家、関係者の前でピッチ

#### 仮説の検証を個別対応

- ・検証活動：  
市場もしくは製品
- ・事業立ち上げ戦略：  
知財、市場開拓(海外を含む)、  
提携、資金調達等

# 1st phaseで活動中7チーム (Gap Fundと連動した教育)

GTIEでは、研究成果の事業化をGap Fundで検討。そこで見えてきた事業化構想をアントレプレナーシップ教育で磨き、新たに必要な活動をGap Fundで再度実行。両者が車の両輪の役割を果たす。

参加前のGapファンド	チーム代表者	所属	Gapファンド 応募検討 チーム	研究概要	協力機関の協力
IdP Gap	O 教授	東工大		遺伝子編集	
IdP Gap	O 特任助教	東京医科歯科大		歯科医療	
IdP Gap	K ビジネス担当	慶応大 医学部		認知症兆し検知	
	N D4 院生	東大医学研究科		手術手技のトレーニング	
	Y 講師	東大情報理工		AI自然言語処理	
IdP Gap	H D1院生, M 教授	慶応大 機械工学		AIを用いた非破壊検査	
	A研究員、K研究員	理研 (理研鼎業)		ガス合成のための新触媒	



注：JETROの仲介で、米国シカゴ在住の専門家（岸岡様）からアドバイス

注：協力機関のT企業インタビュー先紹介を依頼



# EDGE-NEXT人材育成のための 共創エコシステムの形成

## Skyward EDGEコンソーシアム 取組成果報告と取組成果のGTIEへの展開

早稲田大学研究戦略センター 教授  
WASEDA-EDGE人材育成プログラム 事務局長  
リサーチイノベーションセンター アントレプレナーシップセクション副所長  
島岡未来子

# Skyward EDGE

## 国内外との連携によるダイナミックなプログラム展開



### <アジア>

北京大/韓国外大

中国重点大学  
(中国サマ-プログラム)

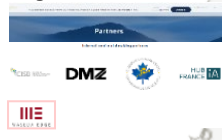


アジアにおける  
エコシステム  
形成

<欧州>  
チャルマース工科大  
ルンド大など  
(MIRAI, Ignite Sweden)



Ignite Sweden (HP)



日米欧三極の機関連携によるグローバルネットワーク形成



### <北米>

バブソン大学  
(バブソン大合同WS)

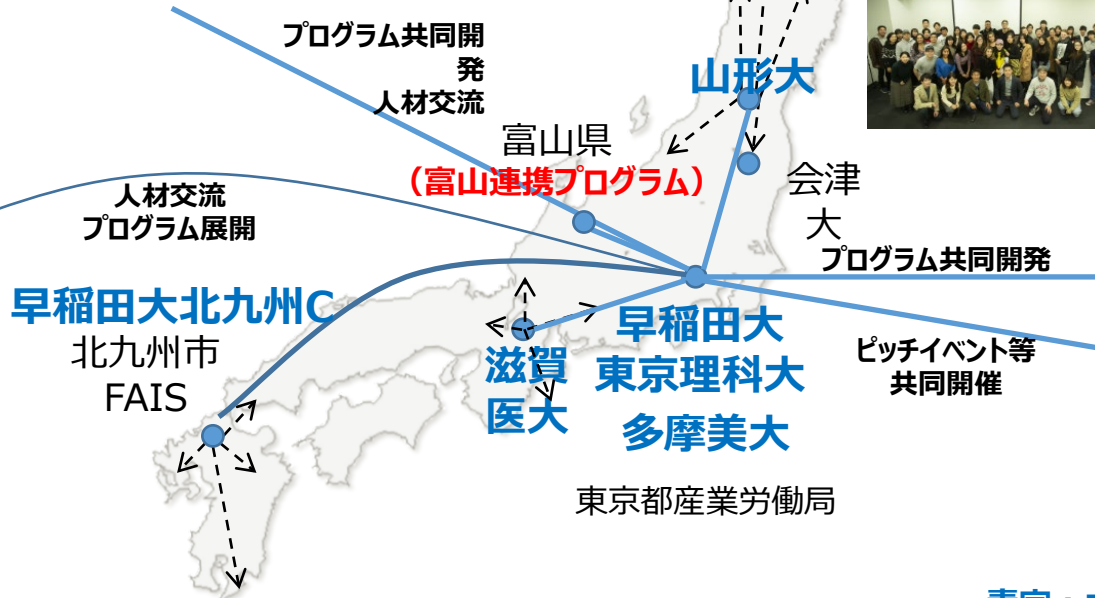
スタンフォード大学  
(d.school連携WS)

MIT

UCSD

(MicroMBA)

メリーランド大学  
オタワ大など



価値共創プラットフォームを介した展開

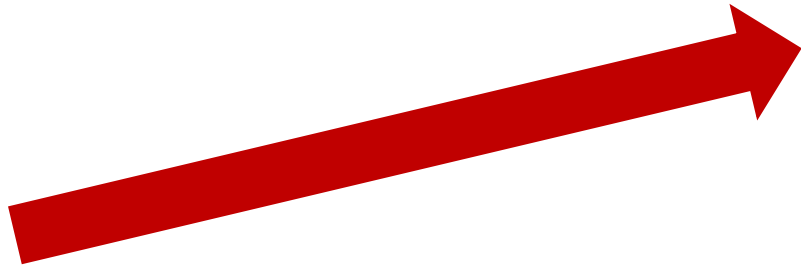
青字：主幹機関、協働機関

黒字：協力機関

赤字：2021年度連携プログラム

理工系・文系・医療系・芸術系など多様な専門分野を持つ大学の連携  
自治体の参画による現場の確保 地域拠点による地方創成  
海外連携による先進的な知見の輸入と開発プログラムの展開 国際競争力の強化

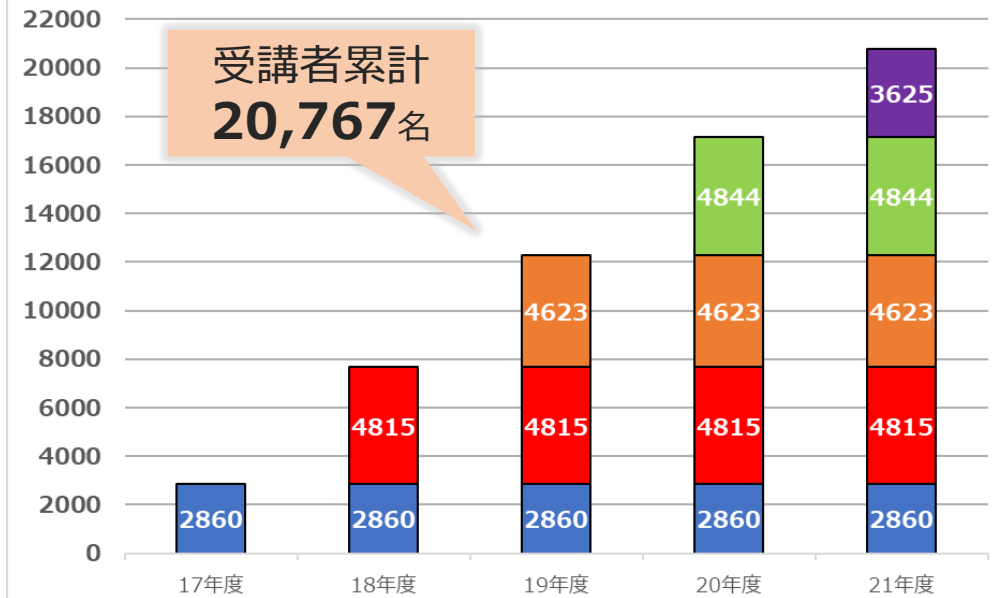
# EDGE-NEXT事業目標に対する主な成果



## 数値目標：5320名 ※5大学合計

目標(延べ数)	単位	5年間計	早稲田大学	滋賀医科大学	東京理科大学	山形大学	多摩美術大学
受講生数	人	5,320	3,200	170	1,520	310	120
うち学部生数	人	2,506	1,280	53	991	62	120
学部生比率	%	47.1%	40.0%	31.2%	65.2%	20.0%	100.0%
起業、新規事業数	件	25	10	1	3	10	1

## 5年間の実績（受講生数・起業・新規事業件数）



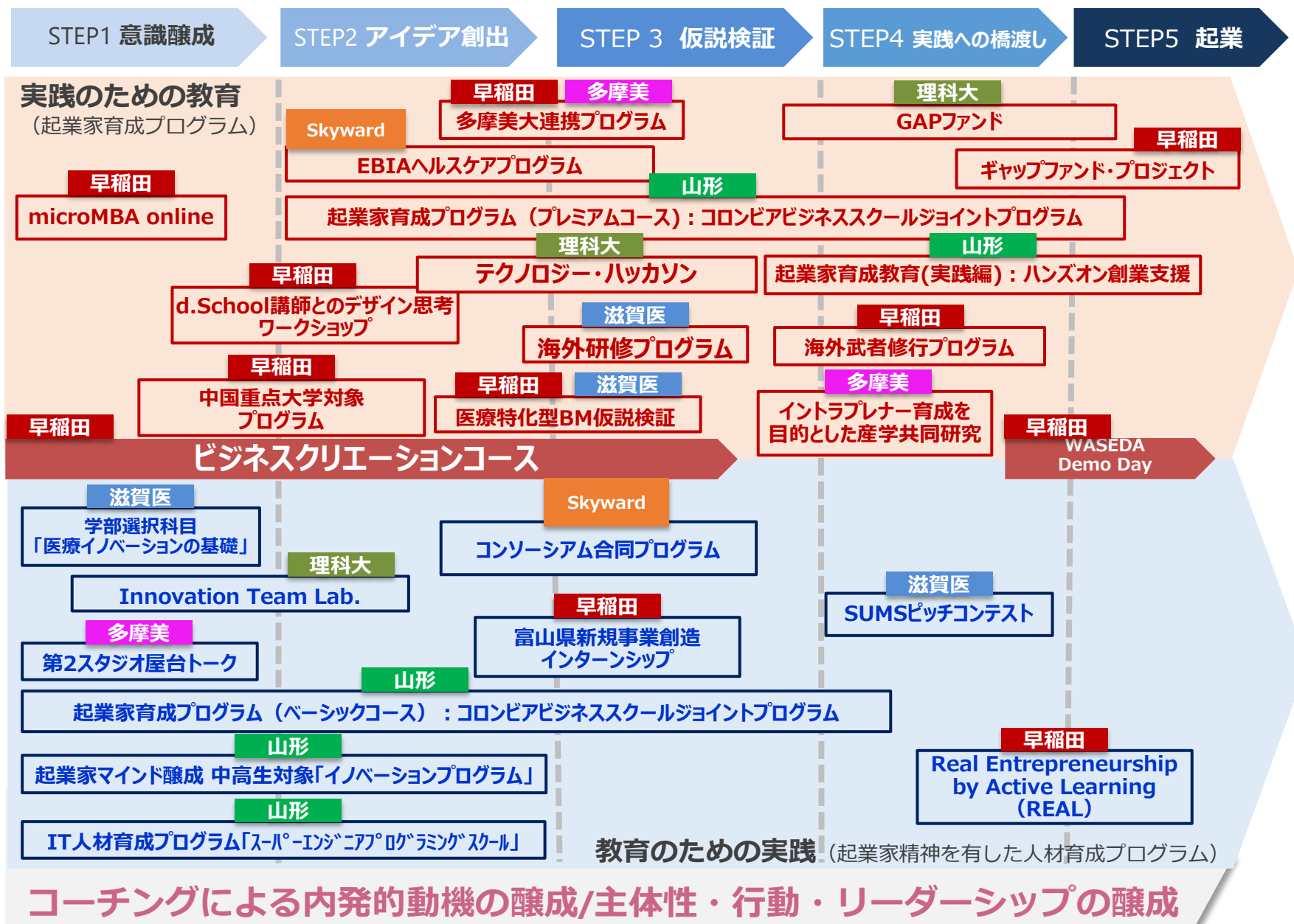
受講生数・学部生比率は、**目標を大きく上回る結果**に

- ・ 受講生数: 20,767名 (目標比約4倍)
- ・ 学部生平均比率: 77% (目標比約1.6倍)

起業・新規事業件数は、**累計45件で目標達成**  
※起業準備中含む

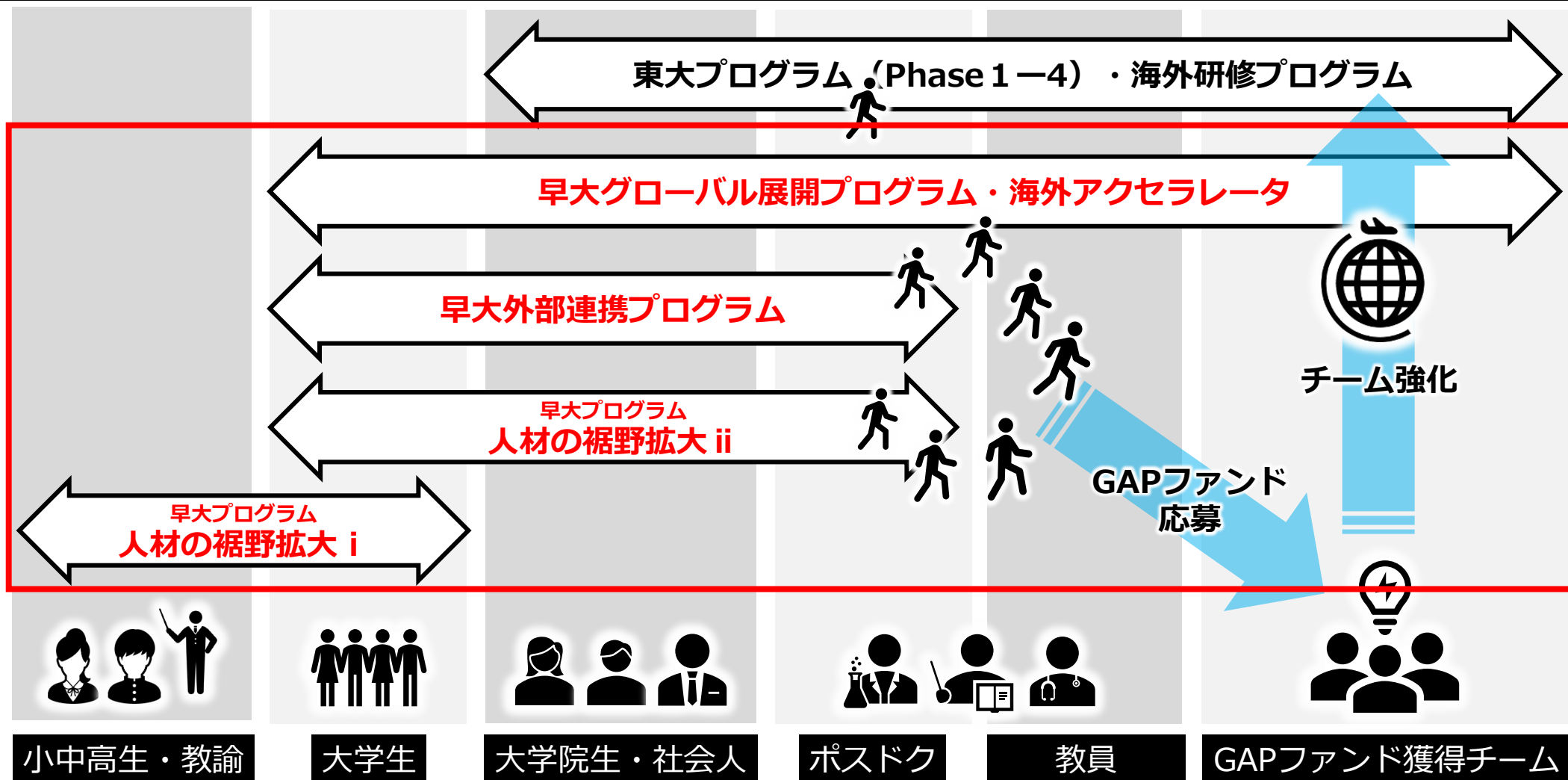


# Skyward EDGE コンソーシアムが提供するアントレプレナーシップ教育プログラムの全体像



# アントレプレナーシップ人材育成プログラムでの役割分担

早稲田大学は、アントレプレナーシップ教育の裾野拡大、外部連携、グローバル展開の役割を担う



・対象に応じて、科学実験教室、エフェクチュエーション/デザイン思考/地域創造ワークショップ、REAL, Demo day での発表機会などを提供予定

・EDGE NEXT で培った、Step 1 ~ Step5のプログラムから適宜提供予定

ビジネスモデル仮説検証プログラム(リーンスターアップ)、大学発ベンチャーに必須な知識な情報、スキルを必修、選択で提供予定

## Skyward EDGEコンソーシアム 連携の継続・発展

1. 5大学コンソーシアム等の合同プログラムの継続実施  
⇒地域創生に向けた自治体等との連携強化の模索、民間外部資金獲得
2. 単位互換制度の継続（正規科目）＊  
⇒各大学教育制度内への埋め込み

### \*単位互換対象の科目例：

**早稲田大学：**ビジネスクリエーションコース  
（ビジネスモデル仮説検証プログラムエッセ  
ンシャル、起業特論など）  
**滋賀医科大学：**医療イノベーションの基礎  
**東京理科大学：**PBL（イノベーションチーム  
ラボ）、アントレプレナーシップ  
**多摩美術大学：**デザインリレーション、情報  
視覚表現論、民族芸術論  
**（山形大学：夏季集中特別講義）**

## Skyward EDGE参加 機関のGTIEへの参 加

（多摩美術大学、東京理科  
大学、滋賀医科大学、山形  
大学との継続連携、他組織  
との継続連携）

### 早稲田大学

2020年度～

JST「社会還元加速プログラム（SCORE）  
大学推進型（拠点都市環境整備型）」主

幹機関 “T-UNITE”

教員・指導者養成、ネットワーク担当

2021年度～

JST「研究成果展開事業 大学発新産業創  
出プログラム（START）スタートアップ・エコ  
システム形成支援事業」主幹機関

### “GTIE”

教育部門（裾野拡大等）、ネットワーク担当



Tokyo Tech

# GTIEとして進めてきた中での課題と 今後の方向性（計画）

東京工業大学

環境・社会理工学院

イノベーション科学系／技術経営専門職学位課程

教授（系・課程主任）

研究・産学連携本部 副本部長

東京工業大学 イノベーションデザイン機構 機構長

辻本 将晴

# 課題と今後の方向性（計画）

- **マインドの醸成、文化の形成のためには継続的取り組みが必要（今回のGAPファンドで手応えあり）**
  - GAPファンドと起業家精神教育の継続的安定実施が研究者、学生、支援機関のマインドを変えていく。単発だと一過性のものと捉えられる。
  - 研究者と学生のマインドが変わっていくことで、より優れたSeedsがより多く生まれてくる
- **取り組みの一貫性のさらなる向上のためにGTIE内外の連携強化が必要**
  - 起業家精神教育、GAPファンド（小型）、伴走支援、チーム形成、GAPファンド（大型）、資金調達、収益拡大といった流れの一貫性の向上が必要。そのためにはGTIE内外で多様な機能を持つアクターの実質的な連携強化が必要。
  - 地域や国境を越えたプラットフォーム形成が有効
  - 一層多くの大学、機関が連携することで、より優れたSeedsがより多く生まれてくる（プラットフォームは規模が大事）
  - 物理的な場所、Studio機能が必要

# 課題と今後の方向性（計画）

- 起業家精神教育、研究者DB・マッチング、起業家コミュニティ形成におけるDX
  - 多くのリソースが潜在化、分散化、断片化している。情報システムを活用して、（人的）資源のマイニング、集積、接続を行うことでポテンシャルが発揮される。
- 起業支援人材の教育、実際に起業することをカリキュラムに入れた教育
  - 起業家精神教育のみならず、起業支援人材向けの教育や実際に起業することでの学びを得るようなスクールが有効
  - 企業から起業人材をスクールに受け入れるような取り組みも有効（EIR）
- 越境型起業家コミュニティが必要
  - エントリーの拡大（小型GAPファンド、SANDBOX）
  - 国、地域、組織（大学）、専門性を超えた若手学生、研究者コミュニティの形成が必要
  - 物理的な場所、Studio機能が必要